

は じ め に

今、特別支援教育に多くの強い関心が寄せられています。「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」（平成 15 年 3 月）でいくつかのことが提言されていますがその中に一人一人の教育的ニーズを把握しての支援やその支援をするための校内体制づくり等があげられており、各地域、各校でその取組が進められています。

当教育センターの相談においても、従来の障害のある子どもたちの相談に加え、クラスの中にいる「落ち着きがない」「忘れ物が多い」「授業中に立ち歩く」「学習のつまずきがある」等、気になる子どもたちの相談が多く寄せられています。先生方が、どう対応したらよいのだろうかと思われ、支援方法について悩まれるということが、特別な教育的ニーズへの気づきとなるといえます。子どもたちの困っている状況や課題となっている行動の背景に目を配り、個々に応じた支援の方法を知り取り組むことが、一人一人を伸ばすことになるのではないのでしょうか。

また、それは、特別な教育的ニーズを必要とする子どもたちだけでなく、すべての子どもたちの良さに気がつく見方や支援へとつながっていくものだともいえます。

この冊子は、LD（学習障害）や ADHD（注意欠陥／多動性障害）高機能自閉症の子どもたちへの基本的な理解と対応について知っていただき、〈具体的な場面〉で示した事例で、支援の方法を参考にさせていただくことを目的に作成しています。

子どもたちの目の前のハードルの高さは、一人一人違うので、この冊子に掲載した事例をそのままあてはめることにはならないかも知れませんが、支援のヒントとしていただくとともに、各学校で、特別支援教育コーディネーターの先生を中心として校内体制づくりを推進するにあたって活用していただけたら幸いです。

平成 17 年 3 月

